

主 題：なぐさめ

聖書箇所：コリント人への手紙第二 1章3-4節

**近藤牧師より**：今回、バレーバイブル教会から来てくださった10人の宣教師の皆さんを今ご紹介しましたが、今から36年前、1973年にバレーバイブル教会の牧師として赴任されて以来、現在もその教会を導いておられるホワイトヘッド先生に、今日のメッセージをお願いしています。先生ご夫妻が浜寺聖書教会に初めて来られたのは18年前で、私が神学校を卒業してから来られたと思っていましたが、その前年でまだ私が学生だったときです。神さまは不思議な方法で私をバレーバイブル教会に導いてくださり、当教会とバレーバイブル教会とのホームステイプログラムが始まりました。恐らく、その計画の打ち合わせのために来てくださったのです。先生をご紹介する前に、いつも先生をサポートしておられるリン夫人をご紹介したいと思います。心から歓迎しましょう。姉妹は教会にあってもすばらしい働き人として婦人たちの間で良い働きをしておられます。ここにおられる間に婦人の皆さんもぜひお交わりをして、すばらしい主とともに分かち合ってください。18年振りということですから、神さまがバレーバイブル教会にどのようなみわざを為しているのか、そのこともお聞きしたいので、ぜひみことばを解き明かしてくださいとお願いしてこの講壇にお招きしました。デール・ホワイトヘッド先生、バレーバイブル教会の牧師です。拍手をもって、この講壇にお迎えしましょう。

**デール・ホワイトヘッド先生（通訳＝岡田大輔牧師）**：

18年経った今、こうして皆さんとごいっしょにこの浜寺聖書教会にすることができるととても感謝しています。教会を代表して、またチームを代表して、そして、私と私の妻からこのように皆さんが私たちを心からもてなしてくださり、歓迎してくださっていることを感謝したいと思います。皆さんに対して私たちは深い愛情を持っています。この長い年月の間、ずっと皆さんとごいっしょにパートナーとして働きをして来ることができたことを感謝しています。私たちは偉大な神に仕えています。神は私たちにすばらしいメッセージを与えてくださいました。そして、私たちはこの神のすばらしい福音を人々に伝えるという働きを分かち合っています。これから先もずっと長い間に渡ってその通りです。どうぞ私たちのために祈ってください。私たちが皆さんのために祈ると同様に。

みことばが教えていることに関して、皆さんに伝えたいことがあります。

数週間前、アメリカで4人の人たちが漁船に乗って釣りに出かけました。出航した時は天候は非常に良かったのですが、時間が経つにつれて、海が荒れ始め、遂には嵐になりました。そして、波は段々激しくなり2メートルから4メートルに至るほどの大きな波が船に襲いかかって来ました。そんなに大きな船ではなかったので、大きな波によってこの船は転覆し、乗っていた4人の男性たちは海へ投げ出されてしまったのです。男性たちは海の中で自分のいのちを守るために必死でした。彼らは何とか船までたどり着いてその船にしがみついていたのです。けれども、長い時間そのような状態にいるうちに、彼らの体温は徐々に下がって来ました。そして、4人のうちの3人は体温が非常に低い状態になったため、いろんな混乱を起こして来ました。彼らはきちんと物事を考えることができなくなりました。自分たちが着けていた救命具を脱ぎ始め、掴んでいたボートから手を離してしまったので、海に流されて亡くなってしまいました。

この話は私たちとどのような関係があるのでしょうか？実は、私たちと非常に大きな関わりを持っています。多くの時に私たちも様々な困難に出会います。そして、その時に私たちもまるで荒れ狂った海の中に投げ出されるような思いを抱くことがあります。私たちはその転覆した船に何とかしがみついているようにするのは、それを続けることは非常に困難です。その時に私たちは、いったいどのようにして良い考えを持ち続けることができるのでしょうか？私たちがその船にしがみつき続けることができるような思いを、どうすれば抱き続けることができるのでしょうか？私たちにそのことができるのは、私たちがそこに「慰め」を見出すことができる時だけです。私たちがつかみ続けるために必要なものは「慰め」なのです。つかみ続けてさえいればいつの日か必ず助けがやって来る、ということを信じていなければいけません。このような嵐の中にあって「慰め」がどのように私たちを助けるのでしょうか？まさに、それこそが私たちがつかみ続けることを助けてくれるのです。救助船がやって来て、私たちを海の中から助け出すその時まで助け続けてくれるのです。

**A. 困難に遭ったパウロはどこに安らぎ、慰めを見出したのか？**

1) 慰めの神のうちに

私たちがこの荒れ狂った海の中に投げ出される時に覚えていなければいけないことは、いったいどこ

に私たちは「慰め」を見出すことができるのかということです。それを持つことによって、私たちがこの荒れ狂った海の中でもしっかりとその綱を握りしめていることができるように、パウロは私たちにこの「慰め」をどこから得ることができるのかを教えてください。Ⅱコリント1：3-4の前半部分を読みましょう。「**私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。：4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。**」、私たちの人生の中で、何度も私たちはこのように荒れ狂った海の中に投げ出されるようなことがあるでしょう。そして、私たちは何とかして掴み続けているその力を探そうとします。それをするために私たちは「慰め」を見出さなければいけません。私たちが掴み続けているなら、必ず助けが来るということを私たちは信じ込んでいなければいけません。そして、私たちがこの慰めを見つけようとするなら、私たちは神を見つめていなければいけないのです。それが私たちのしなければいけないことです。私たちの前に困難がある時に、まさに、これこそ私たちが覚え続けていなければいけないことです。そして、パウロが為したこともまさにこのことだったのです。彼は自分の前にあった困難の中で神を見つめたのです。彼の前にあった様々な困難の中で、彼はその働き全体において、常に神を見続けたのです。特に、コリントの教会との関係において、パウロは神に慰めを求め続けたのです。なぜなら、パウロにとってこのコリントの教会は非常に大きな苦しみの原因でした。彼はこの教会を愛して心から気遣っていました。パウロはこの教会が大いに成長し、繁栄して行くことを願っていたのです。けれども、この教会にはたくさん問題があり、その問題はパウロに多くの苦しみを与えました。このような時に、パウロには神の慰めが必要だったのです。そして、パウロは神に慰められていたのです。それゆえに、パウロはこのことばをここで記しているのです。そして、神が与えてくださる慰めゆえに神を誉め称えるのです。ですから、3節は神への称賛から始まっています。

## B. パウロはどのように神に慰められたのか？ — パウロとコリント教会

まず最初に、パウロとコリントの教会の関係を見て行きましょう。それをするによって、どのようにパウロが神によって慰められたのかを考えたいのです。パウロはこのコリントの教会を18ヶ月間かけて建てました。人々の間に住み、人々を心遣い、彼らを教え、その中で男性も女性もキリストのもとにやって来て彼らは生まれ変わったのです。そして、教会ができました。パウロは彼らに対する心からの愛情を持っていたのです。けれども、パウロがほかの場所で彼の働きをするために教会を出て行った時に、この教会には多くの問題が発生しました。この問題がパウロが四つの手紙をコリントに宛てて書くきっかけとなったのです。私たちがそのうちの二つの手紙を所持していませんが、二つは持っています。これらの手紙がどのような形で、なぜ書かれたのかということをお話しましょう。

### 1) 一番目の手紙

最初の手紙は、今私たちに残されていません。この手紙についてはⅠコリント5：9で説明されています。「**私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。**」、この手紙は大体紀元52年頃に書かれたものです。なぜこの手紙を書かなければいけなかったのでしょうか？パウロが去った後に、この教会の人たちが教会の中にあつた罪とどのように関わっていたのかということに問題があつたのです。コリント教会の人たちは罪を真剣に捉えることをしませんでした。それゆえに、教会の中にいた人たちが不道德な罪を犯し続ける兄弟姉妹たちと交わりを続けていたのです。神の前に反抗し、神の前に罪を悔い改めることをしない者たちから離れることをしなかったのです。それゆえに、パウロはコリント教会の人たちのことを心配しました。なぜなら、彼らの持っていた罪に対する態度に問題があつたからです。それゆえに、パウロは一番目の手紙を書いたのです。

けれども、コリントの教会はパウロの手紙を無視しました。コリント教会の人たちはパウロの指示に従わなかったのです。それは、パウロの心に大きな傷を与えました。彼は心から心配していたのです。それはまるで大きな荒波がコリントの教会を打ちたたき、パウロは転覆していったコリントの教会から海へと投げ出されたかのようでした。

### 2) 二番目の手紙（コリント人への手紙第一）

それゆえに、パウロは再びこの教会に手を差し伸べる必要があつたのです。それで、パウロは二番目の手紙を書きました。それが私たちの聖書にあるコリント第一の手紙です。この手紙を通してパウロは彼らを助けようとしたのです。さらに多くの指示が与えられています。そして、パウロは神によって慰められたのです。なぜなら、コリント第一の手紙を通して、コリント教会の多くの人たちがパウロに対する正しい反応をしたからです。それはまるで襲っていた嵐が少し緩やかになったかのようでした。それゆえに、彼は神に対して大きな感謝を持っていたわけですが、けれども、嵐はすぐに再び起こりました。さらにひどい状況が起こつたのです。コリント第一の手紙を書いたしばらく後に、にせ教師たちがコリントの教会にやって来たのです。彼らは自分たちがキリストの使徒であると訴えました。けれども、彼らはにせ使徒でした。私たちがこのことをはっきり理解することができます。なぜなら、Ⅱコリント2：

1からそのことが記されているからです。パウロはその時にいたエペソから旅立って、コリントを再び訪ねます。なぜ、パウロがコリントに行ったのでしょうか？コリントの人たちを心配していたからです。パウロはコリントの教会に行つてにせ教師たちに対峙しました。本物の使徒でないにせ使徒たちに対して、パウロは彼らが間違っていることを訴えに行つたのです。パウロは教会の会衆の中に入って、にせ使徒たちに対して彼らの非を責めました。けれども、コリントの教会はパウロの言うことを聞かなかったのです。それどころか、教会の中にいたにせ教師たちは、パウロのそのメッセージに対して立ち上がり、パウロに対して責めのことばを投げかけたのです。彼の権威を軽んじ、彼の教えを否定したのです。パウロの心は深く傷つきました。パウロが心から愛し、パウロが心から気遣っていたその教会は、パウロに対して心を開かなかったのです。この教会はにせ教師、にせ使徒たちの手によって危険にさらされていたのです。再び、パウロは大荒れの海の中へと投げ込まれてしまいました。その波は余りにも大きなものだったゆえに、彼には神の慰めが必要でした。その慰めをもって、助けが与えられるまで転覆しかけの船にしがみついていることができるように。そうすることによって、この教会を継続的に支えて行く働きをし続けることができるようにと。それで神は彼を慰めました。だから、パウロは再びこの教会に三番目の手紙を持って働きかけをすることができたのです。

### 3) 三番目の手紙

この手紙についてはⅡコリント2：1－4に記されています。私たちはこの手紙も持っていません。私たちの前にはないのですが、この手紙は「厳しい手紙」として知られています。この手紙をもってパウロはありとあらゆる手段をもって、彼らが間違っているところから立ち返ることができるように、非常に厳しい責めのことばを記したのです。これらにせ教師たちは彼らにとって危険な存在であり、彼らはまさに悪魔の手先であると。この手紙を書き終えたパウロは、テトスにこの手紙を託し、テトスはコリントにこの手紙を持って行くのです。そして、パウロはエペソを立ち去り、トロアスに行つたのです。パウロはテトスに託したこの「厳しい手紙」がコリントの教会の人たちにどのように受け入れられたのかという報告を聞くために、トロアスでテトスを待っていたのです。けれども、テトスはトロアスにやって来ませんでした。パウロは教会のことを心から心配していたので、待ち切れず、エーゲ海を越えてマケドニヤへと向かいました。マケドニヤはコリントの町があったアカヤ地方の北方にありました。そこで遂に、パウロはコリントから戻って来たテトスに出会うことができました。

テトスは、コリントの教会がどのように「厳しい手紙」に応答したのかという知らせを持ってやって来たのです。ですから、私が想像するに、テトスが扉を抜けてパウロの前に出て来た時に、パウロの心臓はものすごい勢いで鼓動していたでしょう。彼の胃は絞られるような思いをしていたでしょう。彼はテトスからの知らせを早く聞きたかったのです。なぜなら、彼の愛した教会がどのようなかを心配していたからです。そして、テトスはパウロに知らせを伝えました。その知らせは良い知らせでした。コリント教会のほとんどの人たちがこの手紙に応答し、パウロに対する忠誠を取り戻し、パウロの教えを信頼するようになったと言うのです。それによってパウロは喜びました。パウロは神からの慰めを一身に受けていたのです。それはまるで、海に投げ出されていたパウロのもとに救助船の光が海のかなたに見えたかのような感じでした。遠くの方からやって来る救助船の光を見て、遂にこの教会が助けられる日が来るのだということを確信できた、その姿でした。パウロには神の慰めがあふれていたのです。

### 4) 四番目の手紙 (コリント人への手紙第二)

そして、その慰めを受けた状況でパウロはまさにこの第二の手紙の1：3－4を記したのです。彼は神の慰めに満ちあふれていたのです。彼は自分の思いを留めることができず、慰めにあふれていたゆえに、彼はこの3－4節のことばを記したのです。パウロは第二の手紙を書き始めました。そして、コリントの人たちがパウロが今まさにもう一度コリントを訪れようとしているからその準備をすることができるようにと、この手紙を書き進めたのです。そこでは、なぜパウロが常に神に慰めを求めたのか、その理由を私たちに教えてくれます。

#### C. パウロが神に慰めを求め続けたその理由

パウロ自身、このことを彼らに知ってほしかったのです。なぜなら、コリントの人たちも多くの問題を抱えていたからです。彼らがどうして神に目を向けなければいけないのかということをお教えたかったのです。そのような必要を抱えている中であって、彼らが神からの慰めを受けるためにです。多くの人たちは、もしかすると、皆さんや私が神に目を向ける代わりに自分たちに目を向け、もし、私が一生懸命これをやったらとか、もし、長い時間これをやり続けたなら、私は問題を解決することができるなどと思っているかもしれません。確かに、変えることが可能なこともあります。けれども、本当の慰めは神だけからしか来ないのです。なぜなら、神は私たちのすべての創造主であるからです。神が海を造られたのです。神が山々を造られたのです。神が木々を造られたのです。神は偉大なる力を持った方です。どんな状況に私たちが自分自身を見出したとしても、この方だけが私たちに慰めをもたらすことができ

るのです。だから、パウロはこの3節で、なぜ彼が常にどのような状況の中にあっても、神に慰めを求めたのかということをお教えしようとするのです。そして、私たちが置かれている嵐の中にあっても、なぜ、私たちも同じように神に慰めを求めなければいけないのかということをお教えしようとしているのです。

### 1) 神こそが私たちの主イエス・キリストの父なる神だから

パウロがこの3節の最初に言うことばは「**私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。**」です。これこそがまさに、私たちがその嵐の中にあっても神に慰めを求める理由の第一番目のことです。私たちが神に目を向けるべきなのは、この方が私たちの主イエス・キリストの父なる神だからです。このことが私たちに教えることは、私たちが神の家に行く時に、神の御座へと出て行こうとする時に、神は必ず私たちを迎え入れてくださることを保証しているということです。父なる神が私たちを受け入れてくださるのは、御子であるキリストがこの神の家の扉を私たちのために開いてくださったからです。私たちの救い主であるキリストが、十字架での死によって、私たちが神のもとに出て行く時に、その家に迎え入れてくれるように扉を開いてくださり、御座への道を通してくださる方であるからです。神の家の扉を開いてくださった、その方の父である神を知ることはそれゆえに大切なのです。もし、皆さんが今日問題の中にあるとするなら、もし、皆さんが困難を抱えているとするなら、もし、皆さんが嵐の中でもがき苦しんでいるとするなら、もし、皆さんがもう掘り込んでいることができないかもしれないと思っているなら、神の許に行ってください。なぜなら、扉はもう開いているのです。私たちが祈りの中で神の許に行くことができるのです。そして、私たちが祈りのうちにこの扉を通して行く時に、私たちの偉大なる大祭司であるキリストは、私たちとともに歩んでくださって、神の御座の前に私たちを導いてくださいます。私たちが手を取り合って、腕を組み合いながら神の許に行くことができるのです。なぜなら、このキリストは偉大なる大祭司だからです。そして、私たちはこの方の御父に受け入れられるのです。これは私たちが疑う必要のあることではありません。間違いなく起こることです。

ヘブル人への手紙4：14-16を読みましょう。「さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。：15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。：16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」私たちが困難の中にある時に、患難で苦しんでいる時に、苦しみの中に置かれている時に、私たちに慰めが必要な時に、私たちは神の許に行かなければいけないのです。なぜなら、この方は私たちの主イエス・キリストの御父だからです。ですから、私たちはその家の扉が大きく開き、キリストが私たちとともに歩んで神の御座の前へと連れて行ってくださることを知っているからです。だから、私たちは神に慰めを求めなければいけないのです。でも、これだけではありません。もう一つあります。

### 2) 神は慈愛の父だから

単に、私たちは神と交わりを持つことができる、そのようになっているというだけではなく、私たちの必要に対して神が確かに応答してくださるということをお私たちは知ることができるのです。なぜなら、私たちの神は単に私たちの主イエス・キリストの父なる神であるだけではなく、実は、この方は慈愛の父なのです。私たちは必要を持っていて、私たちは弱さに満ちています。神はそのことをよく知っておられるのです。詩篇103：13-14をお読みします。「：13 父がその子をあわれむように、主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。：14 主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる。」私たちが神の御座にキリストが開いてくださった扉を通して出て行く時に、キリストが私たちの手を取って、腕を取って神の御座の前へと連れて行ってくださる時に、そして、私たちの弱さの中で神の前にへりくだってひざまずく時に、慈愛の父は私たちに対して慰めをもって、あわれみをもって接すること以外に接することができないのです。神は私たちに無関心ではありません。神は私たちを気遣ってくださっているのです。神は私たちを愛してくださっているのです。だから、私たちが神の御座の前へと出て行く時に神は私たちをあわれんでくださるのです。けれども、神は私たちが抱えている様々な大きなものすごい問題の中で、私たちを十分に慰めることが本当にできるのでしょうか？もちろん、その答えは、神には偉大な力があるということです。神は創造主なのです。神はすべてのあらゆる力を持っておられます。もし、私たちが神の前に出て行って、神の前にひざまずくなら、私たちの弱さの中にあっても神は慈愛の父として私たちの求めに応答してくださいます。何よりも神はその慰めを私たちに与えることが可能なのです。そのことが三番目にこのテキストによって私たちに教えられています。

### 3) すべての慰めの神だから

3節「**私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。**」この「**すべての**」ということばは非常に重要です。聖書は私たちにこの神が「**すべての慰めの神**」であると

言います。つまり、神以外に慰めの源はないと言っているのです。この地上において私たちが何らかの形で慰めを受けるとするなら、その慰めは何らかの形でその源を天におられる御父に持っているのだというのです。もし、私たちがそれゆえに父や母、兄弟や姉妹、または友人や様々な仲間によって慰められることがあるとするなら、私たちは父なる神に感謝しなければいけないのです。なぜなら、この方はすべての慰めの神だからです。慰めの源は神以外にないのです。この方こそが私たちの抱えているありとあらゆる状況の中で私たちに慰めを与える方なのです。

単に、神がすべての慰めの源であるだけではなく、この神が与える慰めというのはありとあらゆる状況の中であって私たちを確かに慰めるものなのです。どんな困難の中でも、どのような問題を抱えていようとも、神は私たちを慰めることが可能なのです。私たちのその助けを私たちの必要な時に備えることができる方なのです。神は決して失敗されることはありません。私たちが問題を抱え、大きな嵐の吼え猛る海の中に投げ込まれたとしても、私たちは自分自身を見つめてはいけません。私たちはほかの人に慰めを求めてはいけません。私たちは神に慰めを求めなければいけません。希望が与えられるために、つかみ続けるその力が与えられるように、神の定められたその時に私たちに必要な助けを神が備えてくださることを知って、私たちはそのことに確信を持つことができるのです。扉を開いて御座に導いてくださる神は私たちに必要な慰めを与えてくださるといふ、その確信を与えてくれるのです。

なぜなら、この神は主イエス・キリストの父だからです。この方は私たちに対する慈愛の父なのです。そして、この方はすべての慰めの神だからです。神は私たちに対して間違いを犯すことはしません。私たちが抱え切ることができないような問題や患難が起こることはありません。だから、4節の前半にパウロはこのように言っています。「**神は、どのような苦しみのおきにも、私たちを慰めてくださいます。**」と。もし、私たちが神に向くなら、神の慰めを求めて神の許に行くなら、私たちの必要な時に神は必ずそれを為してくださいます。私たちはしがみつく力を持ち続けることができるのです。なぜなら、助けが必ず来るといふことを私たちは確信するからです。なぜなら、神は誠実な方だからです。神は偉大な方なのです。この方は私たちの主イエス・キリストの父なる神です。この方は慈愛の父です。この方はすべての慰めの神なのです。

もし、皆さんが今日、問題を抱えているなら、もし、皆さんが困難の中にあるなら、もし、皆さんが疲れ切っているなら、もし、皆さんが掴み続けることができないと思っているなら、どうぞ神を見つめてください。神に信頼してください。そして、神の慰めを受けてください。なぜなら、助けは来ているからです。私たちにはずばらしい救いがあり、私たちにはずばらしい神がおられます。ここに皆さんと一っしょにいることを心から感謝しています。神はこの真理をもって私を慰めてくださいました。そしてこの真理をもって神が皆さんを慰めてくださるのです。皆さんの最も大きな必要の時に……。